

令和5年度 学校推薦型選抜 小論文(文学科 英語英文学専攻) 解答例

問1 (12点)

【採点のポイント】

- ・本文に挙げられているSDGsの3つの観点を順に列挙しているか。

【解答例】

関連づけること。相違を認めること。未来に目を向けること。

問2 (18点)

【採点のポイント】

- ・第4段落の内容を正しく述べているか。

【解答例】

第2の観点は「相違を認めること」である。持続可能な開発目標の目指す「誰一人取り残さない」差別なき世界は、弱い立場にある人々も含むすべての人々だけでなくあらゆる動物、さらには地球環境までも除外しない。従って、地球規模の問題に取り組み、解決策を探るに当たって、私たちは多様性を受け入れ、複眼的に考えなくてはならない。そうすれば様々な解決策が見いだされることになるだろう。

問3 (70点)

【採点のポイント】

- ・選んだ目標に適合した具体例を挙げているか。
- ・自分の考えを具体的に述べているか。
- ・文章を論理的に構成しているか。
- ・高校で習得する程度の語彙力、および日本語表現能力があるか。
- ・400～500字で書いているか。

【解答例】

選択した目標 3

ジェンダー平等を実現するために私にできることは、ジェンダーに関する自分の意識を変え、それを日常の細々した言動に反映していくことだと考える。「世界経済フォーラム」が2021年に発表した男女平等度ランキングによると、日本は、先進7か国では、最下位にあるようだ。「ジェンダー」という言葉は高校の授業で習って知っ

ている。「女らしさ」「男らしさ」の規範のことである。日本社会が男女平等を実現できない背景には、人々が「女らしさ」「男らしさ」の規範に縛られていることがあると私は考える。私の曾祖母が生まれた頃には、女性は選挙に参加する権利すら与えられていなかった。だが社会の在り方に疑問を唱え、打開しようとする一人一人の努力によって、社会は少しずつ変化してきたのだと思う。私はジェンダー平等を実現するために、まず私自身が「男だから」「女だから」という言葉を口にするときには、その言葉を本当に使っているのか自問しようと思う。自分の日々の言動がジェンダー規範に縛られたものであることで、自分や友達の可能性を画一的で創造性に乏しいものにしないよう気をつけたいと思っている。(471字)